

ハチゴロウの戸島湿地で… 「豊岡らしいボランティア」を考える



ハチゴロウの戸島湿地は、人工的に創出した3.2ヘクタールの「湿地」を市の施設として管理している全国でも珍しい場所です。

その管理は、まずは「雑草との戦い」。そして、コウノトリの餌場としての湿地の機能を高め、そのノウハウを広めるため、検討と実践を繰り返す「生きもの目線の改良実験」の連続です。市内の団体・コウノトリ湿地ネットがその任に当たっていますが、圧倒的な自然の力を前に途方に暮れることもしばしば。そこで、活躍してくれるのが市内外からのボランティアの皆さんです。

個人、団体、学校、会社…。作業に加わった方々のメッセージから「ボランティア」について少し考えてみたいと思います。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017
ハチゴロウの戸島湿地 ☎20-8560



●竹切り作業等をサポート 県立尼崎小田高等学校(尼崎市)の声

戸島湿地がオープンした平成21年度から毎年作業に参加している尼崎小田高校。手作りで管理している湿地のうわさを聞き、生徒たちにコウノトリ野生復帰の生の現場を体験させたいと計画されました。

「コウノトリの郷公園で野生復帰の取組みを学んだ後、戸島湿地で実際に体を動かします。頭で考えること、体で考えることを整理することが、深い学びにつながります」と引率の田中俊雄先生は話します。

コウノトリがいる豊岡だからこそできる体験だと、この行事を楽しみに待っている生徒も多いとか。「豊岡で感じた思いを地元でも生かそうと『尼崎21世紀の森づくり』の取組みにも参加することになりました。

もちろん豊岡での作業も続けますよ!」(田中先生) 今年もお待ちしています!



●湿地改良作業をサポート (株川嶋建設(寿町)の声)

「管理に苦労されているという話を聞いて、お手伝いしようと決めました」と語るのは、担当の谷口 操部長。毎年11月をボランティア月間として不法投棄のごみ処理などを続けてこられました。平成21年度から戸島湿地での作業も加えていただいています。

他のボランティアと少し違うのは、専門的な知識や技術を生かして、湿地の改良作業に従事していただいていること。草の生え具合や水深、生きものの様子などを見ながら、区画造成や外来種駆除など、その年の作業内容を決めます。

「自分たちの仕事が地域に役立っているという充実感があります。作業後の湿地の経過が気になって…(笑)」(谷口部長)

戸島湿地は、水辺を再生し、生きものを増やし、コウノトリを定着させるための場所です。ここで作業に参加する人たちは、どうも、単に施設管理の手伝いを目的に来ているわけではなさそうな感じ? 彼らが作業に見いだしている「意味」とは、いったい何なのでしょう。一般的なボランティアと比較しながら、整理してみましょう。



| 区 分 | 対象は? | その効果は? | |
|----------------|-------------------------------|-----------------------|----------------------|
| 一般のボランティア作業 | 人のため 社会のため | 感謝される 社会に貢献する | 自身も充実感を得る |
| 戸島湿地でのボランティア作業 | 生きもののため 豊岡のため (公の施設のため) | 生きものが増える 市の公益に貢献する | 自然に癒される 自身も充実感を得る |

つまり、「人のため、社会のため」という幅広い対象から「生きもののため、豊岡のため」に絞込んだ作業を行っているといえます。

戸島湿地での作業を通じて、市全体の公益(共通の財産)に一役買う。簡単に言えば「生きものを増やすことで、豊岡の役に立つ」ということでしょうか。それだけではありません。自然に働きかける作業の中で、独特の充実感を感じています。

豊岡以外から訪れた方々も、こうした豊岡の取り組み姿勢が、他の地域にとっても同様に「公益」として広がっていくべきだと感じるからこそ、参加しているのだと思います。



豊岡が推し進めている『コウノトリ政策』は、「コウノトリに代表されるさまざまな生きものや、命に目を向けた取組みが、きっと、このまちにとっての公益につながるに違いない」という市の思いの表れです。公費を投じ、ボランティアの力を借りて生きものを増やす。こんなまち、世界中探しても、そうはありませんよね!

「ちょっと手が空いたなあ」「体を動かしたいなあ」。そんな時、あなたも「豊岡らしいボランティア」に参加しませんか? まずは戸島湿地での作業から。個人でも、グループでも歓迎です。市民の力で形を変えていく湿地。こんな施設も、他にはありませんよ!



▲円山川下流域とその周辺水田は、現在、ラムサール条約湿地登録に向けた運動を展開中。城崎温泉の対岸に整備した「ハチゴロウの戸島湿地」は、その中核施設です。春には、毎年コウノトリのペアが湿地内の人工巣塔に営巣します。ぜひ、足をお運びください。

●指定管理者「コウノトリ湿地ネット」の声



「この湿地は、生きものがたくさん入ってくるように手を加えることと、コウノトリが餌を捕りやすいように水深を浅くしておく必要があります。前者では土

木や生物の知識・技術が要りますし、後者では、雑草対策で多くの人数が要ります。いろいろな方に来ていただいて助けてもらっています。これからも、よろしくお願いします」(代表 佐竹 節夫)